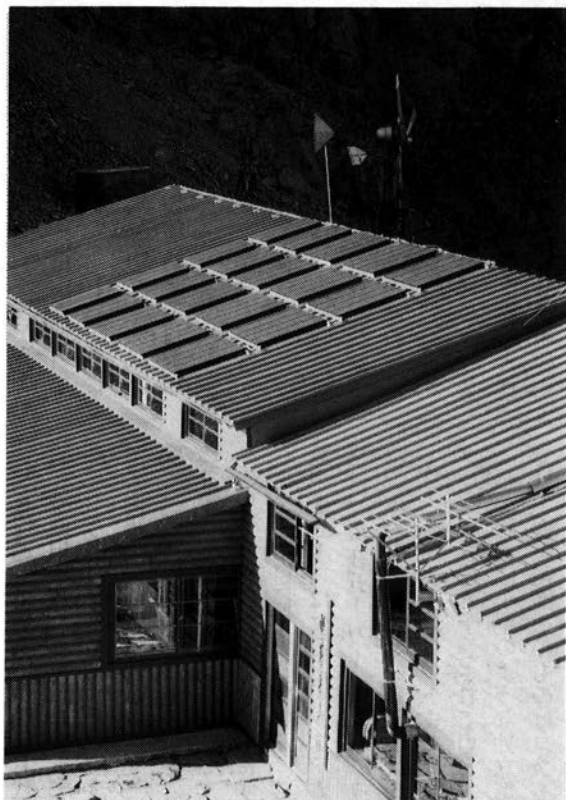




稿高岳山荘の太陽電池(屋根の上)と風力発電装置(建物の奥)

その後の自然エネルギー利用発電

森 武昭



1997 年(平成 9 年)
4 月号 (No.623)

社団法人 日本山岳会
The Japanese Alpine Club
定価一部 150 円

目次

その後の自然エネルギー利用発電… 1	
「第 3 回登山と高所環境に関する国際 医学会議」について…………… 3	
追悼・名誉会員サリーンさん…………… 4	
報告	
指導委・アイスクライミング研修会…………… 5	
集会委・八方尾根スキー懇親会…………… 5	
三水会・現地集会竹寺…………… 7	
海外の山・登山の「評価」について…………… 6	
支部だより…………… 8	
北海道支部 東九州支部	
東西南北	
ディームベルガーと雲取山の小鬼 9	
「雄国沼を考える」シンポジウム 9	
俳句・西上州父不見山…………… 10	
短歌・アンナプルナトレッキング 10	
アメリカ山岳センター訪問記…………… 10	
短歌・三方倉山・1 月…………… 11	
中高年赤シャツ山行…………… 11	
ウエストンと槇夫妻の写真…………… 11	
図書紹介…………… 12	
『とやま山紀行』『ビヨンド・リスク』	
『フィールドガイド・阿寒国立公園	
を歩く』	
図書室受入報告・新入会員…………… 13	
会務報告・ルーム日誌…………… 14	
INFORMATION・住所変更・会員異動…………… 15	

▶日本山岳会事務取扱時間	
月・火・木・土曜日	10～20時
水・金曜日	13～20時
▶図書室開室時間	
日曜・祭日・月曜日を除く毎日	13～20時

普及状況と負荷のニーズ

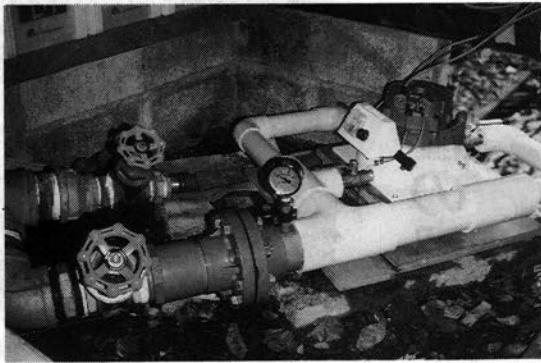
太陽光・風力・超ミニ水力などの自然エネルギーを利用した発電は、エネルギー源が枯渇することがない上に、自然環境との調和を図るといふ長所がある。この長所を生かして商用電源の届かない山小屋などでこれを実用化していくことは、意義深いものがある。

筆者らが、北アルプス穂高岳山荘で風力・太陽光発電の本格的な実用化研究を始めて以来、約十五年になる。この間に、当会の年報「山岳」などに、そのつど成果を発表してきた。そして、平成七年三月にそれらの成果が認められて、鳥居亮会員を代表とするグループで第三十一回秩父宮記念学術賞を受賞するに至っている。

本稿では、その後の自然エネルギー利用発電の状況について述べることにする。

わが国の山小屋などでの普及状況は、表 1、2 のとおりである。北アルプスや八ヶ岳のように、登山者の多い地域で多く採用されていることが目につく。内訳としては、技術的に容易で、信頼性・保守性においてとくに優れている太陽光発電が圧倒的に多い。太陽光発電は、設備規模を、経済的負担などを考慮しつつ順次増設していくことが可能なことも、大きな長所となっている。例えば、穂高岳山荘では、平成七年に二二八〇ワットから三四四〇ワットへ、丹沢尊仏山荘では平成六年に五〇〇ワットから一〇〇〇ワットへ増設している。

山小屋で使用する負荷としては、照明と通信手段の電源が大部分であるが、最近では環境破壊防止や清潔さを重視する観点から、し尿処理や



三条の湯の水力発電装置

トイレの換気扇などのニーズが高まっている。例えば、祖母山九合目小屋(太陽光四二〇〇ワット・風力七〇〇ワット)でのコンポスト方式トイレや、この夏に建て替える丹沢蛭ヶ岳山荘(三〇〇〇ワットの計画)での換気扇などが予定されている。

■太陽光発電のコストダウン

太陽光発電の課題は、技術的にはほとんどクリアされており、残るはコストダウンである。このためには、一般家庭など平地での普及が不可欠である。平成六年度から、バッテリーを用いずに電力会社の配電線と連係することを条件に、国が費用の半額を補助するモニター制度が発足し、

普及を促進している。現在最も代表的な設備規模は、三キロワットで四百五十万円程度である。我が国全体での太陽電池の設備容量は、九三年で二万キロワットであるのを、二〇〇〇年で四〇万キロワット、二〇一〇年で四六〇万キロワットにすることを国の目標値としている。この数字をベースにすると、システム価格は、現在五十万〜六十万/キロワットのものが二〇〇〇年には十萬〜二十万円/キロワットまでコストダウンできると予想されている。

しかし、山小屋のような独立電源では、太陽電池そのものはコストダウンの恩恵を受けることができるが、バッテリーが必要な上に、荷揚げなど設備工事の条件が厳しい点(現在平地の倍近いコストとなっている)などを考慮すると、平地ほどに多くを期待することは困難である。とくに、バッテリーの小型・軽量化など蓄電技術の進歩が重要な課題となっている。

■超ミニ水力発電の可能性

ダム式のような大規模水力発電は環境問題が指摘されているが、超ミニ規模の水力発電は、沢の水をパイプで引き込んで使用後はそのまま元の川へ戻すだけなので、水質汚染の心配もないし自然環境に優しい発電方式ということが出来る。したがっ

表1 地方・地域別普及状況

地方	地域	利用箇所
北海道		5
東北		8
関東・中部	尾瀬・那須	5
	上信越	7
	秩父	11
	丹沢・箱根	4
	富士山	10
	南アルプス	9
	八ヶ岳	19
	北アルプス	41
	中央アルプス	2
	白山周辺	3
中国		3
四国		2
九州		4
計		133

表2 種類別普及状況

種類	利用箇所
風力発電	10
太陽光発電	115
水力発電	13

注：これらの表は平成9年1月現在で、神奈川県工科大学自然エネルギー利用研究グループが調査した結果をまとめたものである。

て、水量と落差が確保できるところでは、超ミニ規模の水力発電が有効である。

水力発電の最大のメリットは、太陽光・風力のように気象条件に左右されることなく、常時発電できることである。例えば、同じ容量の設備で見ると、水力は太陽光の六〜八倍の威力を発揮する。それ故、数百ワット規模の水力発電でも中規模の山小屋の電力をほとんどまかなうことができる。

筆者らは、奥秩父雲取山の中腹にある三条の湯で実用化試験を行ってきた。ここでは、落差が約二四メートルで三インチパイプで発電機に送水している。数年前、カナダ製の発電機を購入して最大三五〇ワットを得た。しかし、この発電機は、ノズルが一個のためタービンへ加わ

る力が不均一になるという難点があり、最大出力での長時間運転には問題があった。そこで、昨年、ノズルが四個あるアメリカ製の新しい発電機を購入して試験したところ、最大四六〇ワットの出力を得た。この発電機は、四個のノズルの径を調整して、タービンに加わる力をなるべく均一化することができるのが特徴となっている。現在も、現地で連続運転中である。

ところで、このような超ミニ規模の水力発電は、自然の豊かな山岳地域と商用配電線が届いている一般施設の接点となる地域で適地が多いものと思われる。日本山岳会でも、山岳研究所運営委員会と科学委員会が中心となって、上高地の山岳研究所に一五〇〇ワットの小型水力発電装置を設置して、各種の研究実験を行

っていくことを計画しており、現在関係機関と折衝中である。

設置にあたっては、上高地の自然とマッチングするように留意し、山小屋などでの普及を促進するためのモデルケースにしたいと考えている。なお、設備は公開とし、発電した電力は、地下の資料室の空調設備(貴重な資料を湿気から守る)や照明に使用する予定である。

日本で開催される「第三回登山と高所環境に関する国際医学会議」について

「第三回登山と高所環境に関する国際医学会議」(The Third World Congress on Mountain Medicine and High Altitude Physiology)の日本開催については、会報一月号の医療委員会報告で触れましたが、今回、詳しく紹介させていただきます。会期は一九九八年五月二十〜二十四日、会場は長野県松本市の松本文化会館です。

■会議の歴史

国際登山医学会(International Society for Mountain Medicine, ISMM)は、スイス、フランス、ドイツ、イギリス、アメリカなどの欧米諸国と日本を中心として結成さ

超ミニ水力発電の普及は、太陽光発電の実用化で注目されるようになった分散型電源の一つとして、今後のわが国のエネルギー政策にも一石を投ずる可能性を含んでいる。

自然エネルギー利用発電は、平地でも重要な役割を担っていくものと思われるが、山岳地域においては、その性格からして今後いろいろなニーズが生じるであろう。

医療委員会 堀井昌子

れた国際組織です。

その学術会議は、第一回は一九八五年フランス・シャモニー、第二回は八八年フランス・グルノーブル、そして第三回が九一年スイス・クランスモンタナというように、ヨーロッパで三年ごとに開催されてきました。内容は主に高所登山に関する医学の問題を扱っています。

第四回からはヨーロッパを離れ、九四年南米のボリビア・ラパス、第五回はその二年後の九六年に同じ南米のペルー・クスコで開催されました。そして第四回からは登山医学に加えて、高所環境の医学、及び高所スポーツ・トレーニング医学等の問

題を広範囲に扱うことになりました。そこで国際登山医学会(ISMM)の役員会では、第四回のボリビア・ラパスの会議を「登山と高所環境に関する国際医学会議」の第一回とし、二年ごとに開催することに決定しました。したがって、昨年ペルーのクスコで開催された会議は第二回となります。

■会議の日本開催の経緯と意義

ISMMは一九九八年の「登山と高所環境に関する国際医学会議」を日本で開催して欲しいと要請してきました。ISMM日本支部は目的を同じくする日本登山医学研究会(Japanese Society Mountain Medicine)と協議の結果、その支持を受けてこの申し出を受けることとし、実行委員会を組織しました。会議の形としては、日本登山医学研究会の定例シンポジウム(第十八回日本登山医学シンポジウム)と同時開催とし、加えて国際山岳連盟(UIAA)医療委員会と国際山岳救助連絡協議会(IKAR)の国際会議も同時・同所開催の予定となりました。

「登山と高所環境に関する国際医学会議」の日本開催の意義は二つあります。

第一は、この会議はアジアで初めて開催される「登山と高所環境に関する国際医学会議」であり、アジア

の各国からなるべく多くの医師、医学研究者に参加してもらうことによって、欧米に比しかなり立ち後れているそれらの国々の「登山と高所環境に関する医学」の水準の向上と普及に寄与することができます。

第二は、日本の「登山と高所環境に関する医学」の水準を世界に知らしめると同時に、世界の水準を日本の多くの医師、医学研究者に認識してもらうことができます。

またこの機会に、研究・業績を通じて各国との学術交流を一層深めるとともに、お互いの理解と友好親善の場を作ることができます。

■会議の目的と性格

本国際医学会議では、大きく二つの分野の問題を扱います。その一つは登山医学であり、もう一つは高所環境医学です。

わが国はヒマラヤなどの高所登山を含めて登山人口が世界一多く、登山における事故も多い国です。そこで、登山の安全に関する医学的知識の向上と普及を図る目的で、登山を愛する医学者によって登山医学(高所登山医学、スポーツあるいはレジャー登山医学)が開拓され発展し、現在、世界的な水準を保っているといえます。しかし、登山医学の中の山岳救助医学は、日本が欧米に比し著しく立ち後れている分野であり、

また、アジアの各国では山岳救助の組織もほとんどないという現状です。したがって、この会議を今後発展の契機にしたいと考えています。

高所環境医学は高所環境が生体に及ぼす影響、たとえばチベットのネパールなどの高所曝露(低酸素・低圧環境にさらされること)に関連した疾患や高所住民の保健衛生などの問題を研究、あるいは高所で暮らしている高所適応民族の高所適応メカニズムを研究する医学分野です。世界各地に散在する長寿郷の多くは高地にあります。これらも研究対象となります。さらに、世界の高地には、銅をはじめとして希少金属や石油の埋蔵が確認されています。これら高地で就労する技術者や労働者の順応及び健康管理に関する問題は、開発促進のための重要な課題であり、すなわち高所環境医学研究の一つの使命であります。

■会議等の内容

●主なシンポジウム

- ①慢性高山病の病態とその対策
- ②世界の高地住民
- ③高所医学の歴史
- ④高所における運動(高地トレーニングを含む)
- ⑤慢性疾患患者への高所環境の影響
- ⑥急性高所障害(急性高山病、高所肺水腫、高所脳浮腫)

⑦山岳救助医学

⑧高所登山用具の最近の進歩

●特別講演

- ①間歇的低酸素曝露について
- ②人類の歴史 アジアから南アメリカへ

●市民公開講座

- ①高所環境について
- ②女性と高所
- ③ホーンバインクローアールと登山医学
- ④ヒマラヤ登山と登山医学

■会議などの日程

五月二十日(水) 登録 開会式 パーティ

二十一日(木) 会議

二十二日(金) 会議

二十三日(土) 会議 J S M M

二十四日(日) 会議 J S M M

市民公開講座

二十五日(月) 二十六日(火)

上高地、瀧沢における山岳救助デモンストレーション

(J S M Mは第十八回日本登山医学シンポジウムの同時開催を意味する)

以上が「第三回登山と高所環境に関する国際医学会議」の概要です。会期中の会議、公開講座には同時通訳が予定されています。なお、第二回登山と高所環境に関する国際医学会議の様子は日本登山医学研究会代表の中島道郎会員が「登山医学」(十

六卷九三(九四ページ)に投稿された「The Second World Congress on High Altitude Medicine and Physiology 1996に出席して」に詳しく紹介されています。

追悼

名誉会員サリーンさん



梶 正彦

本会名誉会員H・C・サリーン氏は、去る一月二十七日ニューデリーの病院で、八十三歳でお亡くなりになりました。

過去三十年間、インドを訪れたいくつものJAC登山隊は、サリーン氏から心のこもった援助をいただきました。一九六八年婦人部カイラス登山隊、一九七六年日印合同登山隊、そしていくつもの学生部登山隊などです。サリーン氏はこれらの登山隊やその他の機会を通じて、JAC会員の中に多くの友人を持っていました。インド登山財団の創立メンバーの一人であったサリーン氏は第三代会

長として、一九六六年から八九年までの二十三年間、インド登山界の発展を実務面から強力に支えてきました。また、八九年から九二年の間、UIAAの副会長でした。これらの活動を通じ、JAC会員のみなならず多数の日本人登山関係者の知己を得ていました。

サリーン氏はインドで著名な官吏の一人でした。ケンブリッジ大学卒業後、イギリス統治下のインド政府にインド人としては極めて数少ない上級公務員として登用されました。ネール首相、インディラ・ガンジー首相の信任厚く、長らく国防次官を務め、また首相任命州知事特別顧問としてアンドラプラデッシュ、グジャラート、アッサムで紛争収拾に携わり、また最後は駐ネパールインド大使を務めました。

この二十年ほど、JAC登山隊がインドを訪れなかったこともあり、インド登山界との交流もサリーン氏を含めた世代に限られている感じがあります。インドには東部カラコルム、ガルワール、シッキムなどバラエティーに富んだ山岳地域があります。これら地域での登山活動を通じて、JACがインド登山界との交流をより深める機会が増えることを期待したいものです。

(在ニューデリー)

報告

REPORT
4月

指導委員会

冬山の本格的技術を学ぶ アイスクライミング研修会



上/ジョウゴ沢F2に登る研修生たち。
下/指導者の青年部K2隊副隊長・松原尚
行会員から熱心に指導を受ける竹下義樹氏

三日間とも好天に恵まれ、十分な成果を上げることができたものと思っています。
我々指導委員会では、『日本を代表する登山団体としてスタンダードとなるべき登山技

二月一日(三日)、八ヶ岳・赤岳鉱泉をベースに、横岳西壁ジョウゴ沢において、指導・青年部・学生部指導・遭難対策各委員会共催のアイスクライミング研修会を開催しました。
この時期に八ヶ岳で行うアイスクライミング研修会は、かつては学生部や青年部が主体となって開催してきた伝統ある行事ですが、昨年より指導委員会が主体となり、本格的な技術研修会として開催することにな

日本山岳会の各委員会
同好会の活動報告です。

ったものです。
今年は山本一夫主任講師以下講師六名、研修生二十四名の総勢三十名の参加により行われました。研修生の内訳は大学生十四名(うち非加盟校学生三名)、一般会員四名、非会員六名というものでした。非会員の割合が三分の一以上と多いのは、会員でなくとも会員の紹介と推薦があれば基本的には受け入れていからです。なかでも京都からは視覚障害者(全盲)で弁護士竹下義樹氏が参加され、ほとぼりするようなクライミングへの情熱を感じさせられました。具体的な研修内容としては、氷壁におけるプロテクションシステムの構成、ダブルアックスクライミングを中心としたシュタイクアイゼンとアイスアックスのコンビネーションクライミング等のほか、積雪層観察による雪崩予知及び埋没者の救助訓練などです。幸い

集会委員会

初めて参加した 八方尾根スキー懇親会

一月十日から十二日まで、恒例のスキー懇親会が長野オリンピック開催地の中心にある八方池山荘を宿舎として開かれた。遠くは兵庫県、大阪府、愛知県の参加者を交えた三十四名が、二泊三日のスキーを堪能した。昨年の沼尻から場所を再び八方尾

術・理論の確立とその普及・指導』を活動方針として掲げております。本会員の中の一流の山岳ガイドや若手トップクラスのヒマラヤニストラを講師に迎えて行う本委員会主催の研修会は、非常に安い参加費で非常に質の高い研修が受けられます。
また、一流ガイドは一流のエンターテイナーでもあります。厳しい技術指導のみで、参加者を落胆させたり、あきさせることは決してありません。研修の最終日には、新しい技術と経験を身につけた充実感に包まれての楽しい懇親会などもちゃんと用意しています。
今後とも会員各位におかれましては積極的によこれらの研修の機会をご利用されることをお薦めいたします。
(熊崎和宏)

根に戻したスキー懇親会は、白馬の
 樽池などで行われていたものを累計
 すると三十回近くになるという。七
 月の会報にこの事業計画案が掲載さ
 れていたが、十一月号には「ツアーの
 企画はないので、唐松岳アタックは
 各自の責任で行う」との集會委員會
 のお達しがあり、私はこれに応じた。
 十日、曇天の白馬駅頭からバス停
 に向かうとすると「一緒にのタク
 シーで行きませんか」と暖かい会員
 の声があり、初参加の私はすっかり
 感激。昼過ぎのゴンドラ「アダム」
 乗り場で「シルバー券」の代わりに
 「四時間券」を購入。リフトを乗り
 継いで八方池山荘に入り、荷物をお
 いてスキーを楽しむ。

夕刻、山荘食堂の受け付けでバン
 ダナ姿の集會委員會の方々に挨拶、
 鍵と部屋割り表を受け取った。夕食
 後はホールでの小宴会に呼ばれ、皆
 さんの四方山話をうかがう。

十一日朝食後、六時三十分山荘前
 に集合。高度計を一八五〇メートル
 に調整し、有志六名で唐松岳を目指
 した。ご来光を尾根に迎えた七時頃
 から稜線の突風が強く、頬を刺され
 て顔も上げられない。

しかし高度を稼ぐにしたがい、ダ
 ーマルの肌着とウールのシャツ、そ
 れにゴアの軽装でも背中が汗ばんだ。
 第三ケルン辺りで振り返ると、後続

海外の山

登山の「評価」 について

江本嘉伸

「一九九六年の十の偉業」という特
 集を米「クライミング」誌(二・三
 月号)がやっている。世界の登山家
 やクライマーが九六年になしとげた
 登攀行為のうち価値あると判断した
 登攀をリストアップしたもので、同
 誌としても初めての試みらしい。
 「クライマーの優劣をどうやって較
 べることができるのか」と自問しな
 がら、自身もクライマーである編集
 者はカテゴリー別に十の登攀を選び
 だし、それぞれについて解説してい
 る。

たとえば「ビッグウォール」とし
 て、カナダ北極圏のバフィン島のポ
 ーラー・サン・スパイア北壁を三十
 九日かけて登ったアメリカのウォー
 レン・ホリンガーら三人をあげる。

標高三千三百メートルの難壁。二
 十日間は嵐が吹き荒れ、ハンモック
 の中で三日間動けずに耐えたなんて
 こともあったという。

「アルパイン」のカテゴリーではヒ

マラヤのアマ・ダブラム北西壁に登
 ったスロベニアのワンジャ・ファ
 ランとトマス・フマルのペアが栄光
 に浴した。一九八〇年に東京ヒマラ
 ヤ登山隊の六人が一か月あまりをか
 けてルートを開拓した北西壁を二人は
 「最も激しいラインをひいて」アル
 パイン・スタイルで五日間で登り
 きったのだ。

「競技会」の分野では、九六年に開
 かれた三つのワールド・カップのう
 ち二大会の女性部門で優勝したリブ
 ・サンソズと、やはりワールド・
 カップ大会で優勝した男子のアルナ
 ウド・プチが選ばれた。コンペでは
 雪崩もクレバスもなく、風さえも吹
 かない。しかし、常に他の目にさら
 され、誰もいない自然の中と違って
 大変なプレッシャーがある、と編集
 者は解説する。

「十の偉業」のすべてを紹介するス
 ペースはないが、「八千メートル」
 についてはふれておこう。ガッシャ
 ブルムー・II峰を単身七十二時間で
 登ったフランスのジャン・クリスト
 フ・ラファイユである。

九五年にアイガーなどヨーロッパ
 ・アルプスの九つの古典的な北壁を
 十六日で登攀したラファイユは、今
 回も他パーティーのロープやテント
 をあてにせず、文字通りの「ソロ」

をやったのけた。十二年前、ライン
 ホルト・メスナーがハンス・カマ
 ランダーとともに七日がかりでやった
 ことを四日間も短縮した。

さて、日本である。二、三月、以
 上に関連すると思われる出来事が続
 いた。

故植村直己がマッキンリーに消え
 た二月十二日、故郷の兵庫県日高町
 が制定した「植村直己冒険大賞」が、
 三月二十七日には自動車会社が主催
 する「オベル冒険大賞」がそれぞれ
 発表され、期せずして二つとも登山
 家が大賞を受賞したのだ。前者は、
 ミヤンマーの未踏峰、カカボラジを
 登った尾崎隆、後者はK2を単独無
 酸素で登った戸高雅史である。

冒険の賞なので「クライミング」
 誌のやったことは自ずと異なるが、
 別に褒められたくてやったわけでも
 ない人間の行為を「勝手に評価する」
 という点では同じであろう。

マラソンを二時間七分で走るなど
 数字で結果が出る分野と違って人間
 の行動の中で登山は最も評価の難し
 いジャンルに属する。しかし、その
 ことを重く考えるあまり評価するこ
 とにあまり臆病になってはいけない
 と思う。むしろ、しっかりと評価する
 ことは必要ではないか。

問題はそれを誰がするかだ。



コバルトブルーの空をバックに第1ケルン前に勢ぞろい

標高二〇八五メートル、零下一〇度、無人の灌木帯のウイルダニスを味わいながら下山中、雲の切れ間に小蓮華を発見。これを撮影中、足元のサブザックが稜線から遥か下に飛ばされた。慌てては駄目とデラパージュで注意深く下りたとき、周囲の方々に迷惑をかけてはとの気持ち背中に重くのしかかった。首尾よくリュックを回収し、稜線上の岩を避けるように南斜面を滑り降り、山荘ホールの

の二人は第二ケルンを過ぎた地点で立ち止まり、ストックを振っている。引き返すなら誘って欲しかったのにと悔やみつ、先行の三人を追った。集会委員会二名と山岳部出身者の足取りはさすがで、ようやく下の樺先の斜面下で追いついた。これが私の限界で、斜面の半ばでターンに失敗して一五メートルほど滑落。すぐ立ち上がって上部の三人に無事を知ら

せ、今度は四〇四のヒールをロックしてステップ刻みで挑戦したが、再び滑落して振り出しに戻った。ここで、去る五月にエベレストで遭難したミスター・レスキューことスコット・フィッシャーの記事が頭をよぎり、森林限界上のクライミングはもはやエクスペディションだから今回のテーマとは違うと自分で納得したのが午前九時。単独撤退は心細かったが、三名に合図し、すでに半分はずれていたスキー・シールをした。

ボスターに記入した到着時間は、先着組より一時間ほど遅い十時半であった。

午後は、目的を果たせなくて倍増した疲労をウイスキーで癒やし、正午まで頑張つて丸山から戻った健脚組の武勇伝を湯舟で聞き、九三年と九五年は悪天候で登頂が断念されたことを知った。夕食後は大宴会となり、委員会手作りのゲームを三組に分れて競ったが、仲良く引き分け。

宴会後の雨飾、焼山、天狗原をめぐる豪快な山スキーのビデオは白眉。十二日、第一ケルン前で集合写真を撮影後解散。コバルトブルーの空を背景に白馬三山と鹿島鏈が「全員無事で何より」と我々を見送っていた。結びに、集会委員会の企画実行に熱烈感謝。

(藤枝和夫)

三水会現地集会

竹寺・子の権現山

二月八日十三時半、西武池袋駅に集合し、急行電車で飯能駅へ。飯能からはタクシーに分乗して竹寺へ向かう。

竹寺はちょうど白梅、紅梅がほころびはじめ、甘い香りが境内全体に漂っていた。竹寺訪問は今年が二十回の節目であり、大変おめでたい山

行である(このうち二回は降雪のため中止になった)。

夜は住職さん心尽くしの精進料理、器から箸まですべて竹製であり、竹筒の熱燗をいただく楽しい宴であった。二十回目の山行を祝し、坂倉さんが代表して住職さんへ感謝状と金一封を差し上げた。さらに、参加者全員が寄せ書きした色紙も添えてお渡した。

翌九日は冬にしては暖かい日で、豆口峠から子の権現へハイキング。お茶屋さんでうどんをいただき、吾野駅から帰京した。(エーデルワイスクラブ合同・参加者十九名)

(樋口公臣)

東京グリーンホテル 都内に3店舗654室

各種ご宴会、ご会合にご利用下さい



水道橋店 ● 千101 東京都千代田区三崎町1-1-16 TEL.03-3295-4161

御茶ノ水店 ● 千101 東京都千代田区神田淡路町2-6 TEL.03-3255-4161

後楽園店 ● 千112 東京都文京区後楽1-1-3 TEL.03-3816-4161

JAC 支部だより



全国各地の支部から、独自の活動状況を
レポートします。

北海道支部

白井岳雪中露営

本年度最後の支部山行として二月二十二・二十三日、白井岳(一三〇メートル)で雪中露営を行った。
東京、函館からの遠来の仲間を加えた総勢十三名は、八時に地下鉄真駒内駅前から朝里岳国際スキー場を目指し、車四台で出発した。

露営地はスキー場から沢を隔てて一キロほどの予定なので、のんびりムードで歩きはじめる。しかしスキー場から一步出ると膝までのラッセルになり、朝里岳沢川左岸の巻きに難渋する。引き返して下流に入るとトレイルがあり、快調にスキーを進め、正午には標高七〇〇メートル付近、右岸のこんもりとした白い丘を露営地に決めた。

早速イグルーの雪踏みにかかる。一方、丘の下手では二人が雪洞掘り。大きなスコップでごろごろとプロックが掘り出され、全員が収まりそうなのでイグルーは中止する。二時間ほどで楽々スペースの雪洞ができあがった。完成祝いをはじめ、就寝の七時過ぎまで楽しい車座の宴は続いた。外は雪も止み、オーロラのようには薄オレンジ色から橙色が天を染め、タンネと岳樺の樹形がシルエットに、スキー場のナイター照明により幻想的な光景を展げていた。

天井から滴る音に目覚め、六時起床。予定通り八時に出発する。青空が広がりはじめ、部厚い雪のマントを着たタンネ、白いモールを巻きつけた岳樺が銀色に輝く。勇躍してラッセルは進む。トップが二人目に代わる。一度沢底に下り、急な登り返しでスキーのバックケンが折損するトラブルが起きた。彼は残念ながらつき添いと二人で引き返すことになった。コースは雪崩を避けるべく岳沢川左岸に沿う支尾根通しに登る。標高一〇〇メートルくらいまで膝を没するラッセルが続いた。

白井岳から朝里岳に連なる尾根の一九〇メートルに出ると、風が造ったラック状の雪庇が派生していた。左折して西風を背にこぶを二つほど越え、頂上に着いた。十二時二

十五分、寒風吹き抜ける山頂に並んで端から握手、握手。シルのまますぐ下山する。

一九〇メートルに戻ってシルを外し、いよいよ深雪の滑降がはじまる。転ぶと自力で起き上がれない。あちこちでサルベージが忙しくなる。スキー上手も一シーズン分の転びを一度に稼いでしまったと笑顔。全員無事に露営地に帰着したのは十四時だった。スキー場で来シーズンへの再会を期し、解散した。(佐々木松男)

東九州支部

筒ヶ岳雪遊び山行

一月の定例山行で、二十六日五時、四台の車で大分を出発。熊本県高森町へ入り、雪道のスリップに注意しながら、カーブの多い山道を静かに運転する。宮崎県高千穂町では一・五キロで林道入り口に到着する。二

〇センチほど積もった雪道のため、車の轍を歩けば楽だが、狭いので体が不安定になる。植林地帯で自然林のないのを嘆きつつ四キロの林道と別れ、急斜面を登る。雪と縁の薄い支部員たちは、木の枝、笹の根に体を託し、岩場の雪に緊張し、氷柱の大きさに驚き、枝から落ちる雪をかぶっては悲鳴を上げる。

山頂付近では石楠花の葉のよじれ

に寒さを知る。山頂直下に六メートルほどの梯子があるのでここで昼食。筒ヶ岳一二九六メートルまで、林道からの高度差三〇〇メートルを雪と格闘して登った支部員たちのご機嫌な顔々。弁当の味も格別である。

下りの道は滑り台となり、土の露出した道を苦勞して林道へ出る。車止め着十三時。「もう一つ登ろう」というので、大分百山の越敷岳へ。林道途中の畑に車を置き、舗装の雪解け道を行く。流れる水は澄んでいて、ピチャピチャと足音軽く登山口に着く。登りは、いずこも同じ自然歩道にみられる階段である。道幅が広くなり過ぎ、横木はえぐれて勝手に動いている。雪解け水と丸太と泥。山頂では「大分県の山の名なら言えるが、他県の山は……」と、おやつを口にしながらしゃべる。

筒ヶ岳は汽船の煙突で根つこが太く、ここはしょうけを伏せた形である。三六〇度の眺めは素晴らしく、晴天に恵まれて気分もさわやか。熊本・大分県境の越敷岳、宮崎・熊本県境の筒ヶ岳に登り、平均年齢五十二歳の十九名の仲間が、車のお陰で十七時無事帰宅できた。

*地図で見ると、神原を熊本では「コウラ」、大分では「コウバル」という。改めて日本語の面白さに気づく。

(西 孝子)

東西南北

会員の皆様のご意見、エッセイ、俳句、短歌、詩などを掲載するページです。どしどしご投稿ください。(紙面に限りがありますので、一点につき二〇〇字詰原稿用紙五〜六枚でお願いします)



イラスト 野田四郎

K・ディームベルガーと雲取山の小鬼

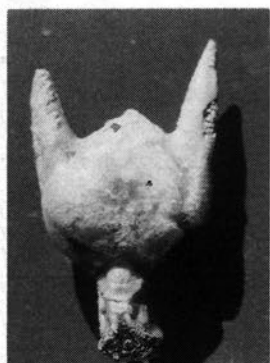
岡澤祐吉

K・ディームベルガーといえば八千メートル峰二座の初登頂をやった世界でただ一人の生き残りで、ヘルマン・ブルガーがチヨゴリザの谷底に消えた時の同伴者だったことでも知られる。彼は六十四歳になるがまだ著名な山岳映画製作者として活躍している。その彼が雲取山と直接関係があるのではない。

五年ほど前の一月のある朝、私は真冬の寒さの中の雲取山荘から雲取山頂に出て、青空に浮かぶ富士山頂を眺め、いつものように視線を右に移して光、聖、赤石、さらに飛んで北岳といった南アルプスの景観を楽しみ、小雲取からの尾根筋をたどっ

たことがある。この時、その冬一番の寒気が上空を覆ったせいかわごうかは分からないのだけれど、太陽の光を受けた雪面の雪の結晶がひととき大きく、まぶしいほどに輝いて見えた。一步足を運ぶごとにその雪の結晶は、所を変えてあちらこちらから私の注意を促すように輝いてみせるのだ。

この時、私はディームベルガーの自伝ともいえる『山頂と仲間たち』に出てくる一場面、彼が幼い時迷い込んだ水晶の森での出来事を思い出



雲取山のオオカメノキの冬芽

したのである。
夜明け前、子供二人で迷い込んだ森の中一面に広がる水晶の群落は、彼らの照らすライトの光でいっせいにきらめき、足を動かすごとに違った方角から、また別の水晶たちがキラキラと輝いて見せるという幻想的な光景である。

その光景を思い出しながら、私はまるでメルヘンの世界にでもいるような気分です。雪尾根を歩いた。そしてふと目を上げた青空の中に、小指の先くらいある小さな鬼の顔をたくさんつけた小枝の垂れ下がっているのが目に留まった。微かな風にその小枝が揺れると、まるで雪の結晶の輝きに合わせて踊っているように見えるのだ。

今年の冬、また一人で雲取山に登り雲取山荘に泊まったが、その時この小屋の主人の新井さんが、雲取山の鬼の顔と題してこの小鬼を紹介している本を目にした。その鬼の顔はムシカリの芽だと説明してあった。あの白いきれいな花を咲かせるオオカメノキのことなのである。

ディームベルガーのおかげで、私はまた山の別の面白い方を知った。二年ほど前、このディームベルガーが白馬村の映画祭に彼の作品をもってやって来たことがあるが、この彼の来日のことを知っていた登高会

の丹部さんは、東京で彼の歓迎会を開いたらしい。山の関係者からの歓迎は嬉しかったのだろう、イタリアに戻ったディームベルガーからの絵ハガキにそのことが少し触れてあった。

「雄国沼を考える」シンポジウムに出席して

小荒井実

磐梯山の西北、猫魔旧火口に雄国沼があり、周辺には高層湿原が広がる。国指定の天然記念物のニッコウキスゲ大群落など貴重な湿原植物群落がある。また、美しい風景は変化に富み、近年多くの人々(県統計は六万五千、一説には十八万人)が押し寄せ、渋滞、事故、植物の盗掘など、オーバーユース(過剰利用)が心配される観光地と変わりない問題を抱えている。

地元の福島県耶麻郡北塩原村、同塩川町、喜多方市で構成する「雄国沼施設等管理運営協議会」では、去る二月十六日、喜多方プラザでシンポジウムを開催。私が「美しい雄国の四季」についてお話しした。その後、尾瀬保護財団参事小森順吉さんなどがパネリストとなって雄国沼の保護について話し合いが行われた。

俳句

西上州父不見山 (三水会山行)

小林碧郎

雪嶺の武甲が蒼し街の空
寒星や町の韻きの神流川

川崎精雄氏卒寿・万場今井屋にて

バスデイクーキ灯りぬ冬の宿

初旅に星座の傲り極まりし

大杉を祀る峠の淑気かな

藪山の日裏日表斑雪ふみ



イラスト 宇都木慎一

短歌

アンナプルナトレッキング

村田彰二

雲間より頂き見せしマチャプチャレ
隠れぬうちに急ぎ写生す

約百五十名の聴衆で会場はあふれ、

関心の深さがわかる。関係する市町村や関係機関が一体となって新協議会を結成し、自然保護へ取り組むことが急務となっていること、山頂付近まで通っている林道の車の通行制限など、今後の課題が熱心に話し合われた。

問題が山積し、早急な解決は難しいが新協議会が結成されて保護活動が具体化することを強く望みたい。

アメリカ山岳センター・アメリカ山岳会訪問記

小林岳彦

一月下旬に、コロラド州ゴールデンにあるアメリカ山岳センター（アメリカンマウンテンエアリングセンター、AMC）およびアメリカ山岳会（AAC）本部を再訪する機会を得たので、ご報告します。

ゴールデンはロッキー山脈東麓のかつての鉱山町で、現在はクアーズ社の巨大なビール醸造所で知られています。AACはコロラド山岳会（CMC）と協同して、一九九三年にゴールデン高校の旧校舎（一九二四年竣工、約三五〇〇平方メートル）を買取り、ここに一九九八年を目途にAMCを完成させようとしています。

AACが本部ごとニューヨークの都座を避けてここに移転してきたのは、まことに同会にとってふさわしいことだと思います。

さて、コロラドとしてもまれなほどの厳寒の朝、インターネット上のホームページで調べた開館時刻にAMCビルに行ったものの、どの扉も閉ざされていて入ることができません。やっと入館しようとする人を見つけて一緒に中に入ってみたら、CMCはもう何人か来ていて暖房も入っていました。車に鞆を取りに戻ったら、ロックアウトされて再び入れるまでにけっこう手間がかかったりして、どうも公開といえながら、本格的に客を受け入れる体勢にはないようです。

AACにはまだ誰も来ていないとことで、小生もかつて一年間会員であったCMCの部屋（教室）に行ってみました。事務局の女性は、小生が客員研究員として滞在していた機関に夫君が勤めているとのことで、ひとしきり話が弾みました。ついでに新刊の山岳書を少々購入。続いてAACライブラリーへ。

一九九三年十一月に訪れた時には、まだニューヨークから運んできた図書や資料の箱が、校舎の中に山積みになっていたが、その一部が開梱・整理され、かつての体育館の中

で公開されています。

現在司書一名と周辺在住のボランティア数名（露日韓伊のタイトルの翻訳）が蔵書整理を進めています。

蔵書量を考えると頭が痛い、司書はこぼしていました。「山岳」「山と溪谷」「岩と雪」なども配架されていますが、日本人の著作ははなはだ少ないようでした。さすがに署名本が多く、またビデオテープの所蔵数が多いように見受けました。書架には本の重複が見えられたので尋ねてみると、いずれAAC会員に頒布する予定とのことでした（そのためだけでもAACに入会する価値はあるかと思いますが、丹節節雄さんなど旧来の会員は渋い顔をされるかもしれません）。

校舎の改造後AMCが完成した暁には、より広いスペースに一万七千冊以上の蔵書を有するライブラリーおよび博物館（約十八平方メートルのエベレストの縮小立体模型などを含む）として一般に公開される予定です。また、CMCとともに成人・青少年教育や自然保護活動の拠点となるべく、三百七十五人収容の講堂なども整備される計画です。

なお、AAC本部はまだAMCビルへ移転しておらず、少し離れた場所におフィスを借りています。事務局長のチャールズ・シマンズスキー氏

辿りこしチャンドラコットただ白く
雲貫くはアンナプルナか

夜半の星映しだししアンナプルナ
暁の厚き雲間に峰隠しつつ

バッテリーで似顔絵描きし鄙の子がペ
ンがほしいと我にまつわる

茜雲マチャプチャレの峰てらし朝日
照りはうサウス山の尾

短歌

三方倉山・一月

大橋克也

燐し銀のかたち異なる文鎮が並びて
聳ゆ県境の冬

下北の猿の如しと岳友は言う深雪の
攀り枝を伝いて

目出帽とザックに付きし雪払えど西
風烈しく凍る片面

内腿が激しく吊って杖放す深雪の尾
根にわれは落伍す

それならば何故山へゆくわが嶺の幕
営の後の安堵のねむり

は、小生と入れ違いでAMCビルに
打ち合わせに行ってしまったとのこ
とで、今回は会うことができません
でした。

AMC設立募金四百二十六万米ド
ルのうち、すでに四分の三が集まっ
たとのこと。また、AACのホーム
ページは本部とは別のデンバーのボ
ランティアが維持管理しています。

近隣には山だけでなく、エバゲ
リオンにある旧知のマイケル・チェ
スラーの山岳古書肆をはじめ魅力的
な場所に事欠きませんが、残念なが
らシリコンバレーでの次の仕事のた
め、おりしも雪の降り出したゴール
デンを後にして空港に向かいました。
AMC完成と種々のプログラムの
充実が大いに期待されます。その地
の利と併せて、ゴールデンは世界の
山岳活動の一大中心となるに違いあ
りません。

中高年赤シャツ山行

坂倉登喜子

日本山岳会会員の中で六十歳を過
ぎた人に、土曜会の有志が赤シャ
ツを作ってお祝いに贈っていた。後
に会員の入沢氏が製作を引き受けて
くださることになり、女性では今井喜
美子女史と私が作っていただいた。

山岳会では村井米子先輩が着てお
られたが、すでに亡くなられ、女性
で赤シャツを持っているのは現在二
人だけである。

日本山岳会も毎年大勢の新人会員
があり、六十歳以上の女性も多いと
思うが、なぜか赤シャツの希望者が
少ない。人生八十年となった以上、
日本山岳会中高年会員は大いに赤
シャツを着て、これからも山に登っ
てほしいと思う。

ところで、赤シャツを作っていた
だいていた入沢会員が亡くなられた
ので、どなたか代わって制作してく
ださる方はいらっしゃいませんか。
しょうか。

ウエストンと槇夫妻の写真

田畑真一

平成八年十月、愛知県豊田市で写
真展「ウエストンの見た明治・大正
の日本」(豊田市美術館)が開催さ
れ、写真集「ウエストンの見た明治・
大正の日本」(杉本誠氏・ウエスト
ン展実行委員会)も発行された。

写真集には明治・大正時代に関係
ない写真、つまり昭和六年に結婚し
た槇有恒夫妻の写真も収められてお
り、解説書には「槇、ウエストン両
氏の深い交流を示す一枚」とあった。

至言である。なお、槇夫妻は着物姿
である。私はこの写真は槇からウエ
ストンへと渡ったものであるとの考
えを持つ。

昭和十年二月十二日、ウエストン
は当時在英中だった磯野計蔵(後に
明治屋第四代社長)に手紙を送った
が、この中に「私は松方三郎から、
ご自分が写っていた家族写真の素晴
らしいクリスマスカードを頂きました。
た。槇さんからは何年も送って頂き
ありがとうございます。日本の着物で
の彼と奥さんです」(三井嘉雄訳)
とあるからである。

「別記」先人のお名前は敬称を略さ
せていただきました。

【世界の山旅・辺境の旅】夏版総合カタログ(全108ページ)、ご請求下さい。

●ヨーロッパ・スイス・フランス・チロル・アルプス・ハイキング●モンブラン
登頂●カナディアンロッキー・ハイキング●アフリカ・キリマンジャロ登
頂●英国の山●南米・ペルー・トレッキング●パキスタンK2エア・サファ
リとナングパルバット・デイルン・ラカボシトレッキング、K2バルトロ
レッキング●インド・ラダック●中国・四姑娘山トレッキング、天山山脈トレ
ッキング●カムチャッカ・ヘリハイキング●聖山カイラストレッキング
マレーシア・キナバル山登頂●台湾・玉山・雪山登頂●日本の山旅●アメリ
カン・ロッキートレッキング、ホイットニー山登頂●カザフスタンなど多数
掲載しております。

※その他、個人旅行、登山隊、航空券手配なども承っております。

運輸大臣登録旅行業490号/日本旅行業協会正会員/IATA公認代理店
アルパインツアーサービス株式会社

本社/〒105 港区新橋2-13-8 新橋東和ビル5階 TEL.03-3503-1911
大阪 ☎06-444-3033 名古屋 ☎052(581)3211 福岡 ☎092(715)1557
仙台 ☎022(265)4611 広島 ☎082(542)1660 札幌 ☎011(711)7106
●詳細ツアーパンフレットをご請求ください。(※りんゆう観光)

図書紹介



イラスト 野田四郎

橋本廣・編

「とやま山紀行」

編者は本会会員である。出身地である富山県の七つの山岳会の会報に発表した登山記録を主軸として、富山県内の約百三十の山の紀行を集成した。個々の山岳会の内輪の報告にとどまっていたものが、編集され、一つにまとまったとたん、地味な山山についての情報を網羅する、ユニークな記録に変貌した。

ハイキングと軽登山の対象とされる山々が主役であって、中高年者の山行ガイドブックに応用できる。地方の山岳会やハイキングクラブが、どんなに自由に、型にはまらない山歩きを楽しみつつ実践していることか。

その喜ばしい実態に触れさせてく

れる書物としても価値がある。

(宮下啓三)

一九九六年十二月 桂書房発行

二九九ページ 二千四百七十二円

ニラス・オコネル・著/手塚勲・訳

『ピンド・リスク』

登山家が、危険を承知しながら未到の岩壁を登攀し、その尾根を越えた先に求めるものは何か。

八千メートル峰をアルパインスタイルで登頂したメスナーは、「よい岩壁のよいルートは芸術作品です。自分の人生が終わっても、登ったルートは残ります」と語り、ヒラリー卿は自分のエベレスト登頂によって「登山界一般に大変な刺激を与えた」としている。そしてポニントンは、

「このゲームに危険はつきもの、事故に遭って悲しむのは、家族・恋人・友人であり、本人は好きなことをしながら、精一杯の人生を送ったのです」と語っている。

ロッククライマーのロビンズとハーディングはヨセミテで競い、一方が多くくのボルトを使って登頂すれば、他方は「ボルトを打つ権利があるとするなら、抜く権利もある」として引き抜き作業を実行したという。

スロベニア共和国の登山家チェセンは、K2招待遠征を終え帰国した時、苦しい家庭生活を見て、家族を

苦しめまいと決心する。

登山は洋の東西・政治体制の異なる世界にあっても、変わることにない自己行為であることに、われわれはなにがしかの後ろめたさを感じないわけにはいかない。

現代の著名な西洋登山家十七名へのインタビューを通して文才オコネルがわれわれに訴えかけるもので、充実した読後感が得られる好著である。

(林 栄二)

一九九六年十二月 山と溪谷社発行 四九四ページ 三千九十円

片岡秀郎・編著

『フィールドガイド・阿寒国立公園を歩く』

阿寒国立公園には、自然保護に力を入れている前田一步園財団というユニークな財団がある。本書の著者片岡秀郎氏は、阿寒国立公園の管理官を勤められたあと、この財団で活躍されているナチュラリストだ。

阿寒というと、湖やマリモを思い起こす人が多いけれど、阿寒の自然をつくりあげたのは、今も噴煙を上げる雄阿寒岳に象徴される火山活動であり、そこにはいくつもの素晴らしい山があることを岳人は忘れてはなるまい。深田久弥も、雄阿寒岳に登って「日本百名山」に取り上げて

フィールドガイドと銘打った本書は、単に登山のガイドブックという枠を越えて、阿寒の自然のすべてをわかりやすく解説した点においてこれまでになかったものである。

たくさんのコースを取り上げ、そこを歩いた時に見える風景や植物を説明する、という本書のスタイルは読んでわかりやすい。ハンディーな本書を手には、阿寒を歩きたくなる人も多いに違いない。写真や図も多く、ぜひとも一読をお薦めしたい本である。

(小野有五)

一九九六年十二月 コモンサイエンス・インスティテュート発行 一八九ページ 千八百五十円

味の技、心でつくる



むさし坊 番町店 (日本TV通り五番町交差点角)
千代田区六番町4 ☎03-3234-3357

むさし坊 日比谷店
(東宝ツインタワービル9F)
千代田区有楽町1-5-2 ☎03-3504-1905
むさし坊 麹町店
(有楽町線麹町駅)
千代田区麹町4-2-6 ☎03-3230-2313
むさし坊 神田西口店
(神田西口通り商店街)
千代田区内神田2-9-9 ☎03-3252-5015
友膳ゆうぜん
(半蔵門線半蔵門駅3分)
千代田区平河町1-3-12 ☎03-3288-5891

図書室受入報告 (1997年2月)

著 者	書 名	ページ・大きさ	出版元	出版年	寄贈／購入
藤井陽太郎 (編)	追悼・1994年2月剣岳別山尾根遭難：早稲田大学山岳部	157pp/22cm	早稲田大学山岳部	1996	発行者寄贈
金沢ナカオ山岳会(編)	白山眺望登山：泰澄大師ゆかりの地をたずねて	202pp/22cm	高島出版印刷	1996	出版社寄贈
江上波夫(著)池内紀(編)	江上波夫の蒙古高原横断記 (池内紀のちいさな図書館)	201pp/19cm	五月書房	1997	出版社寄贈
深田久弥(著)池内紀(編)	深田久弥の山さまざま (池内紀のちいさな図書館)	205pp/19cm	五月書房	1996	出版社寄贈
中村成勝 (編)	日本雪山登山ルート集:58 Japanese Snow Mountaineerings	182pp/26cm	山と溪谷社	1997	出版社寄贈
横山厚夫	ヤマケイ登山学校 (6) :低山を歩く	149pp/22cm	山と溪谷社	1995	出版社寄贈
近藤和美	ヤマケイ登山学校 (10) :冬山	166pp/22cm	山と溪谷社	1997	出版社寄贈
田代博 他	ヤマケイ登山学校 (15) :山の地図と地形	247pp/22cm	山と溪谷社	1996	出版社寄贈
保科雅則	ヤマケイ登山学校 (18) :アルパインクライミング	174pp/22cm	山と溪谷社	1996	出版社寄贈
柳澤昭夫・北田啓郎	ヤマケイ登山学校 (20) :スキー登山	206pp/22cm	山と溪谷社	1997	出版社寄贈
敷島悦朗	ヤマケイ登山学校 (21) :海外登山とトレッキング	165pp/22cm	山と溪谷社	1996	出版社寄贈
日本気象協会 (編)	夏山の気象観測表 (平成7年)	200pp/26cm	日本気象協会	1995	発行者寄贈
日本気象協会 (編)	夏山の気象観測表 (平成8年)	152pp/26cm	日本気象協会	1996	発行者寄贈
遠山元春	都内の三角点 (1996年度版)	60pp/26cm	埼玉山岳調査会	1996	発行者寄贈
遠山元春	日高市の三角点	29pp/26cm	埼玉山岳調査会	1997	発行者寄贈
大垣山岳協会 (編)	美濃の山 (第1巻) :揖斐川水系の山 (1)	262pp/20cm	ナカニシヤ出版	1997	出版社寄贈
富山県山岳連盟 (編)	ブロード・ピーク1988 / ガッシャーブルム1994報告書	80pp/30cm	富山県山岳連盟	1997	発行者寄贈
東宝 (編)	マナスルに立つ (日比谷映画劇場パンフレット・カラーコピー版)	16pp/26cm	東宝	1956	熊野将氏寄贈
森文俊・内山りゅう	淡水魚 (山溪フィールドブックス No.15)	287pp/19cm	山と溪谷社	1997	出版社寄贈
串田孫一 他 (共編)	槍ヶ岳 (日本の名山 第9巻)	267pp/19cm	博品社	1997	出版社寄贈
千葉高山岳部事務局(編)	針葉樹：県立千葉高等学校山岳部創部50周年記念誌	115pp/26cm	千葉高山岳部OB会	1996	発行者寄贈
坂倉登喜子・梅野淑子	日本女性登山史	181pp/21cm	大月書店	1992	梅野淑子氏寄贈
日賀田嘉夫 (編)	神戸一中遠足部・神戸高校山岳部史1996：母校創立100周年記念	240pp/26cm	大島輝夫	1997	編者寄贈

会務報告

【二月理事会】

日時 二月十三日(木) 十八時三十五分～二十時十分

場所 日本山岳会会議室

出席者 村木会長、宮下、中村、齋藤各副会長、大屋、吉永、中川、大谷、伊藤、水野、南井、堀井、溝口、山本、田邊、宇田川、熊崎、大蔵各理事、川崎、石橋各監事、小倉、大倉、村井、大森各常任評議員

【委任】 松浦、渡邊各理事、神崎、重廣各常任評議員

【審議事項】

(一) ウェストン・レリーフの撮影許可願の件 大屋

ルームに掲げてあるものを、当会の寄付者に贈呈するレリーフの参考にするため、(崎玉県生態系保護協会・亀田トラスト担当より撮影許可願が出された。承認)

(二) 平成九年度事業計画及び収支予算案の件 大屋、吉永

①事業計画案・資料による提案説明

②収支予算案・資料による提案説明

(三) 国体、及び高校総体における山岳競技に関する文部省宛要望書(案)の件 大蔵

関係各部門と検討の余地があり、日本山岳協会等と協議をすることにし、今回は見送りとする。

(四) マナスル登頂関係資料の借用願の件 大屋

展示場改装に伴い、戦後日本スポーツ史上欠くことのできないマナスル登頂一九五六年関係資料展示品の借用願が、秩父宮記念博物館より出された。承認

【委員会報告】

●総務委員会・中川

①二月二十二日(土)～二十三日(日)十三時より水道橋グリーンホテルにおいて、全国支部事務局担当者会議を開催する。

②三月十五日(土)十四時より、平成八年度新入会員オリエンテーションを開催する。記念講演は「日本山岳会の発足とウェストンの役割」講師・水野理事(図書管理担当)

●指導委員会・熊崎

二月一日(土)～三日(月)、遭難対策委員会、青年部、学生部共催でアイスクライミング研修会を八ヶ岳(横岳ジョウゴ沢、赤岳鉱泉ベース)で開催した。参加者三十名。

氷壁におけるプロテクションシステムの構築、シュタイクアイゼンとピッケルとのコンビネーションクライミングの技術全般(とくにダブルアックスクライミングのテクニック)

の他、雪山におけるレスキュー技術等、総合的な研修を行い、十分な成果を上げることができた。

●山岳研究所運営委員会・溝口

①平成八年度宿泊人数≒千十七人

②利用料の改定予定

会員≒三千円(十人以上団体扱い二千五百円) 据え置き

非会員≒四千円→五千円

小学生≒千五百円 据え置き

小学生以下≒無料→千五百円(寝具等に維持費がかさむため)

●資料委員会・溝口

①データバンク委員会 十二月十九日、講演会を開催した。テーマ「電子時代の地形の話」講師・田代博氏、出席会員四十名。

②全国山岳博物館連絡会(仮称) 日本山岳会から寄託されている全国の山岳博物館より、ネットワークを作りたいとの要望が出されているので、当会が音頭をとり、連絡会を進めていく予定。

③資料の取材 寄託している山岳博物館に順次デジタルカメラで、データ作りを進めていく予定。

●消耗品の処分について・村井

ナムチャバルワ登山以来の使用不能となったテント、その他の青年部の物資が保管されている。これらを順次廃棄処分し、在庫ゼロを目指す。

ルーム日誌

2月	総務委員会
3日	アルパインスケッチクラブ
4日	山の自然学研究会
5日	医療委員会
6日	フォトビデオクラブ
7日	常務理事会 総務委員会
12日	アルパインスケッチクラブ 95
13日	理事会 総務委員会 集会委員会
14日	緑爽会
15日	高所委員会
17日	総務委員会 アルパインスキークラブ 図書委員会
18日	二火会 山研委員会 資料委員会 山岳編集委員会
19日	三水会 科学委員会
20日	山げらの会
21日	図書委員会
23日	支部事務局担当者会議
24日	資料委員会
25日	自然保護委員会 フィルムビデオ委員会
26日	データバンク委員会
27日	集会委員会
28日	海外委員会

2月来室者571名

INFORMATION



◆「第十七回日本登山医学シンポジウム」開催のご案内

医療委員会

最近ではマラヤやヨーロッパ・アルプスなど、高所に出かける方がふえています。

そこで、高所ツアー・トレッキングにおける高山病対策、高所順応トレーニングの効果、山岳診療所、南極基地あるいは海外高所登山隊における健康管理、最近の日本の登山事情などあらかじめ知っておくことが大切です。今回のシンポジウムは学術的一般講演をはじめとして、特別講演、パネルディスカッションなど、様々な角度から取り上げます。

皆様のご参加をお待ちしています。

会期 六月六日(金)～八日(日)

会場 東京都庁(新宿区西新宿二一八一一)

・都民ホール(都庁都議会棟一階)

七、八日 特別講演、一般講

演及びパネル展示

・都民広場(都議会棟前広場)

六、七、八日 登山の安全・楽しさについてのイベント

会長 関口令安会員

事務局 東京都立広尾病院副院長室

TEL・〇三―三四四四―一一八一

FAX・〇三―三四四四―三一九六

*参加費については事務局にお問い合わせください。

◆新緑の上高地・山研で懇親会開催

95同期会

芽吹き季節です。森の甘い香り

漂う一夜を上高地山研に集い、親睦を深めましょう。登・下山ルートは事前に参加者と協議して決定したいと思います。

日時 五月二十四日(土)～二十五日(日)

場所 山研に二十四日十六時集合

費用 山研宿泊費など実費は各自負担、懇親会費は現地精算。持ち込み大歓迎

申込・問合せ ハガキ、電話(二〇時以降)、ファックス(終日受信可)で遠藤源太までご連絡ください。

〒一五〇 新宿区原町三―七五

一六

TEL・〇三―三二〇七―一七八七

FAX・〇三―三二〇七―五七四九

締切 五月十日

*山研宿泊予約料として千円必要

■会員異動

物故

築井一徳(一一六八〇) 6・10

土倉九三(二四〇〇) 8・6

南雲利彦(五八三五) 9・2・9

佐藤俊一(二二一九) 9・2・18

退会

中川 弘(六五二六) 9・2・28

山田信一(一一三七八) 9・2・28

吉川謙二(一一一四) 9・2・28

終身会員

飯野 亨(四四六七)

柳沢勝輔(五八九一)

◆編集後記◆

会報の広告についてはお願いとともに、情報源としても重要なものです。

裏ページのハコマは当分動きそうありませんが、記事中はあと二、三コマくらいの余裕があります。広告を出してください、という方がありましたら、ご紹介ください。

日本山岳会会報 山 623 号

1997年(平成9年)4月20日発行

発行所 社団法人日本山岳会

〒102

東京都千代田区四番町5-4

サンビュウハイツ四番町

TEL 東京 (03)3261-4433

FAX 東京 (03)3261-4441

発行者 村木潤次郎

編集人 伊藤 敏

印刷 株式会社 双陽社